

## 14 「do-ing（動員）」の力学を知ろう

### ～自主性ある地域活動をめざして～

#### ○開催目的

地域ではPTAや町会など、さまざまなボランティア活動があります。本来、こうした活動は自主的な参加であるべきですが、「動員」による活動も見られます。動員は活動の面白さを失わせ、人を遠ざけてしまいます。

動員とは何か、なぜ動員が起きるのか、動員から自主的な活動へ転換できるのか、自身も地域活動に関わっているゲストを交えて考えます。

#### ○開催日時

2月13日（土）14：30～17：00

#### ○参加者数・出演者・団体

参加者数：22名（参加者17名、出演者2名、スタッフ3名）

出演者：西川 正さん（NPO法人ハズオン！埼玉 常務理事 / 地元・上尾市の民生委員・PTA役員）

庄嶋 孝広さん（市民社会パートナーズ 代表 / 地元・大田区の元PTA会長（大田区立小学校PTA連絡協議会 会長）・青少年委員）

#### ○プログラム内容・成果と課題

##### 1 第1部：動員の問題の根っこにあるものとは

###### 1) 西川さんより話題提供

\* 動員（民生委員・PTA）の現状…参加依頼が多い！時間が足りない！

\* NPO・市民活動とは世界が違う…「シキタリズム」

→市民活動はもともと意識が高い

→動員はずっとやってきたこと…性質として染みついている！

\* 「負担感」の研究…なぜ負担感が生まれるのか

→負担感(f)の公式： $t \gg a = f$

t…意味なし感、やらされ感、わからない感、キャパオーバー感、孤立感

a…ありがとう、表彰

###### 2) 参加者を交えての意見交換

\* みんな状況が違うのに、ひとつの形を押しつけるのがよくないのでは

→行きたいか行きたくないか自分では選べない

→内部で自由に決められるならいいが、すでに「正解」があるのが一番の問題

→古いがんじがらめ感がある…「内側は女性、外側は男性」みたいな役割感

- 動員はイヤイヤだが、図書ボランティアの活動は自主的に集まってくる
- \* 空気を冷やすのではなく、あたためることが重要（≒雰囲気を変える）
  - 大切なのは「遊び」…ドキドキを共有できる仲間が存在
- \* 行政はなぜ動員をするのか…政策の浸透には影響力ある人に呼びかけるのが早い
  - 逆に考えれば、全員が全員熱くなる必要はない
  - お金をもらっていないのに、有給の職員のために自分が行かねばならない不服感
- \* 動員であっても本当に活動しているから、かえって言いにくい
  - 「来てみるとよかった」という感覚を持たせればまだいい
  - 「動員するなら（やり）甲斐をくれ！」…これなら次につながる広がる

## 2 第2部：地域活動は誰が担うべきか

### 1) 庄嶋さんより話題提供

- \* 地域の活動を自分で選ぶのは大変…実は動員もアリでは？
  - 地縁系の活動…人脈を介して次の展開につながりやすい
  - NPO系の活動…地域では知られておらず次につながりにくい
- \* 自治会やPTAは「硬い組織」で仕事が固定されている…やり方を変えにくい
  - 縛りがあるように見えるのは、逆に言うと誰でもやれるようにするため
  - 新しいことはボランティア（できる人が、できる時に）でやるのがよい
  - 義務と自発のバランスが重要…分担の工夫
- \* 「共助」…気持ちでなりたっている（≒「自助」「公助」に比べ持続が難しい）
  - 活動している人の自己肯定感を高めることが必要
  - お互いに褒め合う、会議のやり方を変える、など

### 2) 参加者を交えての意見交換

- \* 地域での人材確保…人が出てきやすい雰囲気づくりや仕掛けで「確率」を高める
  - あの手この手で、できる限り多くの人に関わってもらうことが重要
- \* 地縁系の活動…地域の人が仲良くなるのが目的、地域の課題解決ではない
  - 世話役・つなぎ役を通じて地域の人がつながる
- \* 地域の担い手を増やすには「小さなコミュニティ」の連携が重要
  - PTAやサークルなどで人がつながっている…読み聞かせ、バレーボールなど
  - コミュニティのリーダー層を動かす…リーダーがメンバーに働きかけてくれる
  - 地域活動の構造の問題…顔が見える関係をどう維持していくか
  - 逆に、顔が見えないと権力に頼らざるを得なくなる
- \* 地域活動…地域の中にいろいろな人がいることがわかるとおもしろい
  - 「仕事」と「地域活動」の割合…相乗効果が生まれるようにするとよい
  - 庄嶋さんは地域のいろいろな人がわかるのがメリット
  - 土曜は家族、日曜は地域など、地域に関わるライフスタイルを！
- \* 地域の中で孤立感をなくすことが大切
  - 縦割りの仕事を割り振りを「仕事は分担、責任は共有」に…チームになる！
  - 後進を育てていくことも重要…PTA会長の役職がその人を地域の人に育てる

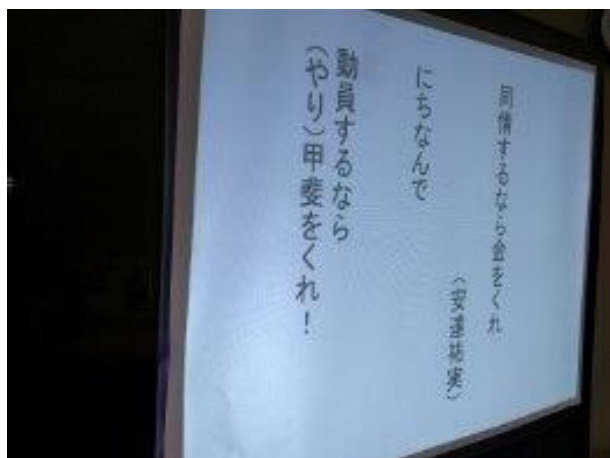
→一緒に活動する、人に紹介するなど、来た人でつくる場づくりを心がける

## ○参加者の声

- ・西川さん、庄嶋さんから具体的かつ論理的に動員や地域の活動の構造などを論じていただき、目からウロコが落ちた。「動員するなら甲斐をくれ」を肝に刻み込み今後仕事をしていきます。
- ・仕事を分担し、責任は共有するという点が1人の負担感を減らし、人を集める力になると思いました。
- ・地域活動を運営する側の心構えがわかった気がします。その日集まった人でしかできない事をプラスしていきたいです。

## ○担当者・記録

《担当》	市川 徹（沿線ボラセン交流会）
《運営サポート》	後藤 務（NPO 法人 VCAS）
	中野 宏美（NPO 法人しあわせなみだ）
	柳澤 更沙（明治大学和泉ボランティアセンター）
	高橋 沙織（みたかボランティアセンター）
《記録》	市川 徹（沿線ボラセン交流会）



### 地域の担い手を考えるヒント(2) ~ 入口の工夫

- 地域活動(共助)は、「気持ち」で成り立っている。「イヤイヤやらされている」と思う人の後に続こうとする人はいない。地域の担い手の「自己肯定感」を高めることが大事である。
- 人材確保は「確率論」(数撃ちや当たる)。人が出てきやすくなる雰囲気づくりやしかけによって、確率が高まるようにする。
  - ・ 世話役・つなぎ役の存在(大人のガキ大将)
  - ・ ハードルの低い入口(文字通りのボランティア)
  - ・ 小さなコミュニティ間の連携(PTA・おやじの会、学校、企業)

